２００２年7月９日

コムケアフォーラムの反省会

場所：コムケアセンター
日時：７月２日　午後１時半～３時
参加者：佐藤修、安江由美子、大川新人、宮部浩司、佐藤泰弘
主旨：６月３０日に大田区産業プラザで開催したコムケア公開フォーラムに関して反省を行い、次のコムケアの最終選考会などがさらに、良い方向に向かうようにする。

反省会の内容

当日の全体的な感想としては、会の雰囲気もアットホーム的で、開催会場に関しても交通のアクセス面、会場の設備なども考慮に入れてみても比較的に満足できるフォーラムの運営ができたとの意見が多く出た。

ただし、さらにスムーズな運営を図っていくためには、ここで、改めて準備段階、資料、会場（受付)、プログラムなどついて検討していくことが必要であり、今回の意見を今後の企画・準備・実行などの材料していく。

準備段階について

準備段階に関しては、広報が弱かった意見が多く、今後の対策としては、広報活動のノウハウを蓄積型にしていくため、広報リスト（新聞、雑誌、取材、ＭＬ リスト）を作成することが決まった。また、普段から声をかけることが出来る、人づくりも作っていくように心がけていくこと。

集客に関しては、あまり会場の定員にこだわらないで集客していく。場合によっては会場の変更などもあても良いなど臨機応変に取り組む姿勢をもちながら進めていく。

その他に、準備段階に関しては、遅すぎたと意見もあるので準備を早めにスタートする必要がある。

当日の配布資料について

資料の配り方に配慮がなく資料が生きなかったので、資料の確認を最初にやる必要がある。そのためには、事前に配布資料を把握しておく必要がある。

また、資料を配るときには、どこでもらえるかのアナウンスも必要。

パネルトークに関しては 3 段団体の活動、プロフィールを作成する必要があり、活動報告会であれば 23 団体の紹介資料の用意必要であった。

その他に、受付での配布資料を把握や、配布資料の場所を決めておき、各自がとっていく方法や参加者リストの配布や資料を持ち帰るための袋の用意、資料の袋詰めセット、名刺の２度取りを防ぐための白紙名刺の用意など次回の最終選考会などで取り入れる工夫が必要。

会場について

雰囲気、設備、アクセスとも ＯＫ で特に不都合な点はなく、会場に壇上がなかったことも良かった点として上げられた。ただ、椅子・机が良すぎたや定員８０人の会議室だったが１００人は入れたとの意見もあった。

会場の担当に関しては、サービスについ対して気おつける必要がある、例えば、喫煙場所やトイレのアナウンスやハンガーの利用を進めるなど、会場にあわせた配慮は必要である。また、写真をとるスタッフが多すぎた。

受付に関しては、受付係に役割を任せることや、受付係の人数（2 人）を増やす必要がある。本の販売に関しても場所の配慮や本の販売（ビラ、領収書など用意して受付に任せる）など、次回の本の販売や他団体の本の販売対策が必要。

プログラムについて

基調講演に関しては時間はちょうど良かった。

パネルトークは、内容をきちんとすることと、パネラーのプロフィールなど資料を作成しておく必要があった。ただ、パネルトークの設定時間（８０分）はちょうどいい時間だった。

活動報告や今年度のプログラムの発表に関しては、何を伝えるかはっきり出来ていない部分があった。プレゼンテーションを学ぶ必要がある。

個別相談については、当日の参加者がどうやっていいのか迷っている人がいたので、もっとアナウンスをする必要があった。

アンケートに関しては、今回は最後に配布したが、次回は初めに配布し、そしてアナウンスをしてみる。また、アンケートに主旨を記述して工夫をするなどの試みが提案された。

休憩時間はちょうど良かった。

その他、プログラムに関しては、福祉福祉していたとの意見もあった

その他として

参加者に対しての伝え方は同じ目線だが言葉に気おつける必要があった。

参加者の送りだし方としては、事務局長は相談員になるのではなく、感謝の意を伝えるため送った方がいいとの意見もあった。

泰弘が電話にでることを強調しすぎた。

会の終了後の打ち上げなどは、「軽く反省かねて」やりましょうなど誘い方の工夫も要する。

今回のスタッフとの関係も次回へとつなげていくことが出来るようにする。

以上の意見を今後に活かして、次につなげていくことがさらなる飛躍の鍵となる。

以上